

オープンイノベーションハブ機能の強化 ー産総研の見せる化の取り組みー



独立行政法人
産業技術総合研究所

理事
イノベーション推進本部長
広報部長

せと まさひろ
瀬戸 政宏

オープンイノベーションの重要性

世界の成長市場（新経済圏）の中心は新興国に移り、また情報技術の普及で世界経済は劇的な速さで規模と構造を変化させています。そして今、世界はイノベーションによる産業競争の時代に入っています。産業競争は企業間の競争だけではなく、国家戦略を反映した国家間の競争にもなっており、企業が自前の技術で研究開発を進めるだけでは間に合わない状況になっています。この状況で、イノベーションを興す方法として、大企業、中小企業、研究機関、大学を含めた多様なプレイヤーが連携し、補い合うオープンイノベーションが求められています。

オープンイノベーションは企業、大学、研究機関などそこに参加するプレイヤーが相互に技術を公開し、外部と連携して技術革新を生み出すものです。日本はこれまで技術を大切にした自前主義で、独自性のあることをその特徴としてきましたが、これからはそれだけでは不十分です。日本が世界の中で引き続きイノベーションによる新しい社会づくりをし、そのイノベーションの力でグローバルな課題の解決に貢献していくため、さらにはニーズが多様で、技術進歩も著しい「新経済圏」で競争力を高めるためには、日本に世界の技術や人材を取り込み、経済の変化に機敏に対応できるオープンイノベーションの環境づくりがますます重要になっています。

産総研の見せる化

産総研は、第3期のミッションとして、「21世紀型

課題の解決」と「オープンイノベーションハブ機能の強化」を掲げています。その中で、オープンイノベーションハブ機能の強化は、産総研の「人」と「場」を活用する形での産学官連携を推進するための自らの機能を強化し、研究開発のみならず技術評価や標準化を促進するというものです。具体的には、これまでも企業や大学などと個別に共同研究を行ってきていますが、最近では、つくばイノベーションアリーナ(TIA)や技術研究組合に参加するなど大型で組織的な連携が進められています。産総研がその中心として活躍、貢献するためには、産総研としてオープンイノベーションの重要性を認識し、産総研の“仕事”と“考え”を連携パートナーとなっていただく産業界や学界の皆さまにご理解いただく必要があり、そのための産総研の“見せる化”を積極的に推進することが重要です。産総研がいま進めている“見せる化”の取り組みとして、以下で日本を元気にする産業技術会議、産総研オープンラボ、本格研究ワークショップについてご紹介します。

ー日本を元気にする産業技術会議ー

「日本を元気にする産業技術会議」は、産総研が日本経済新聞社の協力の下、日本がイノベーションによる産業競争の中にあり、東日本大震災からの再生もやらなければならない今、産総研としてもイノベーションによる社会づくりを提案する力が必要であるとの認識に立ち、昨年10月に立ち上げたものです。会議では、これまで再生可能エネルギー、革新的医療・創業、IT/サービス工学、先端材料・製造技術実用化の4つ

の技術課題に、横断的なテーマとして標準化と人材育成を加えた6課題について、産総研研究者と企業や大学の多様な研究者・技術者、経営者が集まるシンポジウムなどを20回開催し、そこには合計で5,000名超の参加者を得て“日本が元気になるための戦略”を議論してきました。その間、理事長のほか産総研の多数の研究者が、産総研の仕事と考えをインタビュー記事も交えて30回以上日経紙上で発信してきました。今年の5月には、日本を元気にする産業技術会議としての総括的な提言を中間提言としてまとめました。日経紙上でも大々的に発信されましたが、ぜひ産総研ホームページで内容をご覧ください。会議ではいま、内外の有識者による最終提言取りまとめの議論を行っており、今年中にはまとめる予定です。多くの職員や関係者にご協力をいただき、産総研の“考え”をベースにした提言をまとめられそうです。その最終提言を公表するシンポジウムを2013年1月25日に日経ホールで開催する予定です。多数のご参加を期待しています。

ー産総研オープンラボー

「産総研オープンラボ」は産総研と企業、大学などとの連携拡大を意図した産総研成果の公開の場として定着してきていますが、今年は5回目として10月25日と26日に開催します。近年の特徴は、企業からの参加者として経営層、技術開発の責任者の方々の参加が増えており、その効果としてオープンラボでの成果公開が共同研究、ライセンス、情報開示契約などに結びつく事例が増えているという点が挙げられます。また、共同研究や契約に結びつかなくともその後の継続的な情報交換、お付き合いのきっかけになるという効果も生んでいます。一步一步ではありますが、オープンラボを通じて、産総研の仕事や考え、そして何より研究者の顔を知っていただくという効果が上がってきていると感じています。

今年のオープンラボでは約420のテーマを公開する予定です、そのうち約100件の研究テーマについてはラボ見学を含めています。また、講演会も充実させる予定です、産総研の6研究分野ごとに多彩なテーマについて講演会を多数企画しています。これに加えて、今年

は「トップ講演会」と銘打って、大企業のトップお二人をお招きした講演会を開催します。日本として、また産総研として何をやっていくべきかという点で、職員のみならずご来場いただく皆さまに企業トップのお考えを聞いていただく良い機会になるものと期待しています。また、「アフタヌーンカフェ」、「イブニングカフェ」として5テーマを選んで、カフェ形式での成果紹介の場を設ける予定です。これは広報部が長年やってきた一般の方を対象とした“サイエンスカフェ”のノウハウを活用して、専門家を対象にしたバージョンにアレンジしたものです。昨年も複数の研究者が詳しく説明し丁寧に質問にお答えするという形式で実施し好評を得たもので、今年も午後と夕方の時間を使って開催する予定です。今年のオープンラボも職員全員で精いっぱい、心を込めて対応させていただきます。多数のご来場をお待ちしております。

ー本格研究ワークショップー

本格研究ワークショップは、所外の関係者に産総研の進める本格研究を理解していただくことを目的に、2009年度から外部公開のワークショップとして開催してきています。「オープンイノベーションハブ機能の強化」を推進する上で、オール産総研の技術シーズを地域で紹介していくことは重要であり、ワークショップは産総研の活動、役割、そして研究者を地域の産業界、学界の皆さまに理解、知っていただく場となっています。

今年度も、9月の札幌でのワークショップを皮切りに、来年の1月まで各地域センター所長が知恵を絞った企画で開催する予定です。本格研究ワークショップは、つくば、臨海副都心センター以外の地域センターの所在地またはその近隣都市で開催しますが、当該地域センターの技術シーズにとらわれず、オール産総研の観点で当該地域ニーズにマッチした本格研究事例を紹介することを基本として実施しています。研究講演に加えてポスター展示や技術相談窓口も設け、地域とのコミュニケーションの密度を上げるプログラムになっています。産総研の仕事と職員を地域で知っていただく機会として、各地域の企業や大学などからの多数のご参加をお待ちしています。